

南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発

「定住」「観光」「防災」をキーワードにした 高森駅周辺のランドデザイン

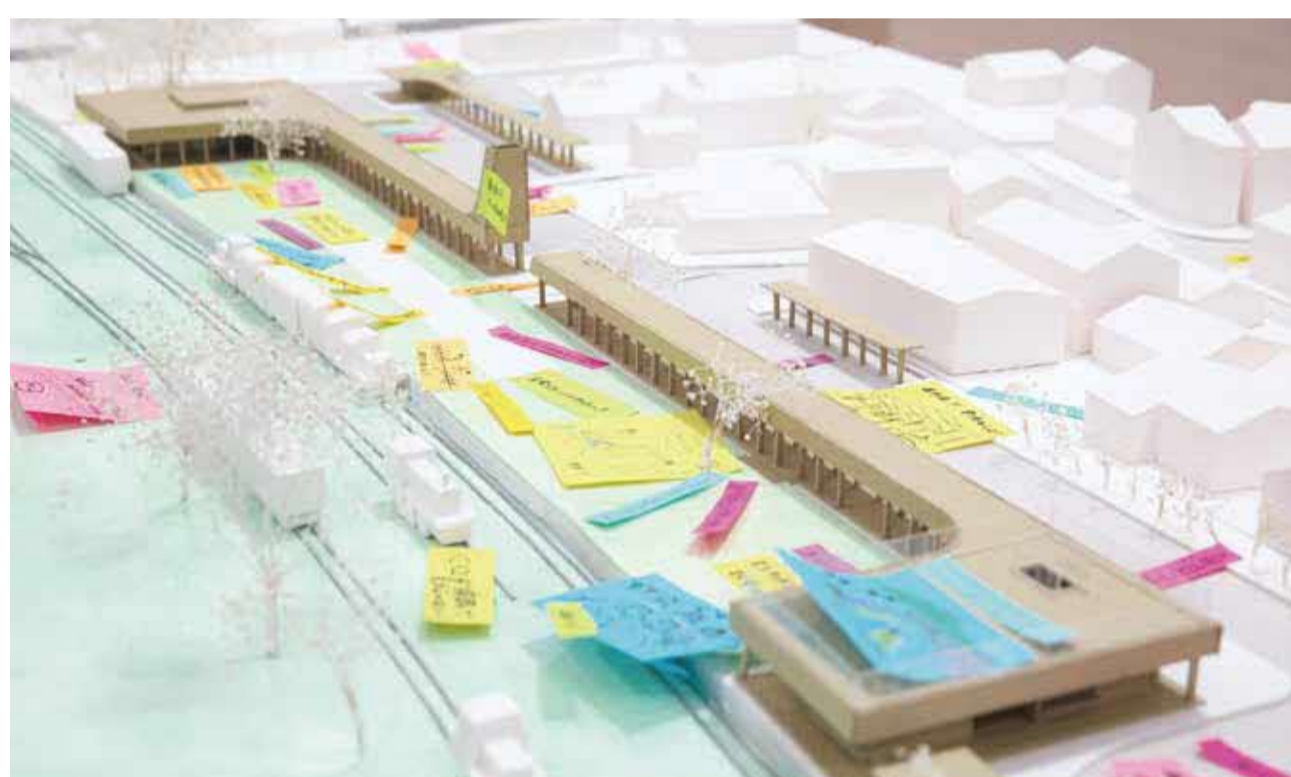
熊本地震により甚大な被害を受けた、阿蘇郡高森町の高森駅と南阿蘇村の立野駅を結ぶ「南阿蘇鉄道」。地域の公共交通の基軸であり、基幹産業である観光業を支える南阿蘇鉄道の復旧は、この地域の復興の鍵となる。高森町は創造的復興の一環として、南阿蘇鉄道の高森駅とその周辺を対象にランドデザインを作成するため、くまもとアートポリス事業に参加した。

南阿蘇鉄道沿線地域の
復興の歩みを後押し

2022年度 新駅舎 竣工予定
2023年度 防災交流棟 竣工予定

公募型プロポーザルにより設計者を選定

最優秀賞 株式会社ヌーブ



優秀賞 千葉 学



佳作 有限会社アトリエ・シムサ
一級建築士事務所



佳作 シーラカンスアンドアソシエイツ・
セルアーキテクト共同企業体



佳作 納谷建築設計事務所



全国から応募のあった39件の応募があり、一次審査を通過した5者による公開プレゼンテーションによる二次審査を高森町で開催。公開審査の様子は高森ポイントチャンネル(TPC)で高森町全世帯に生放送された。

町民の皆さんと「ワークショップ」を重ねながらランドデザインを策定



町民の皆さんと全5回のワークショップを開催し、意見や要望を汲み取りながら、ランドデザインを策定し、公表会を開催。公表会の最後には、ランドデザインで提案する「プラットフォームの旅」を体験できる企画も実施された。現在、ランドデザインに基づく駅舎等の設計が進められている。



熊本地震震災ミュージアム中核拠点施設

熊本地震の記憶を巡り、広域的につなぐ 回廊形式のフィールドミュージアム

熊本地震の記憶や経験、教訓を後世に遺し、国内外に発信するため、熊本県内各地に広範囲に出現した断層等の震災遺構とともに、観光施設等をつなぐ、“回廊形式”のフィールドミュージアムの整備を進めている熊本県。この「熊本地震震災ミュージアム」の中核拠点となる体験展示施設の整備をくまもとアートポリスプロジェクトとして取り組んでいる。

熊本地震の記憶や経験を
後世へつないでいく

2023年度 竣工予定

公募型プロポーザルにより設計者を選定

最優秀賞 o+h・産紘設計JV

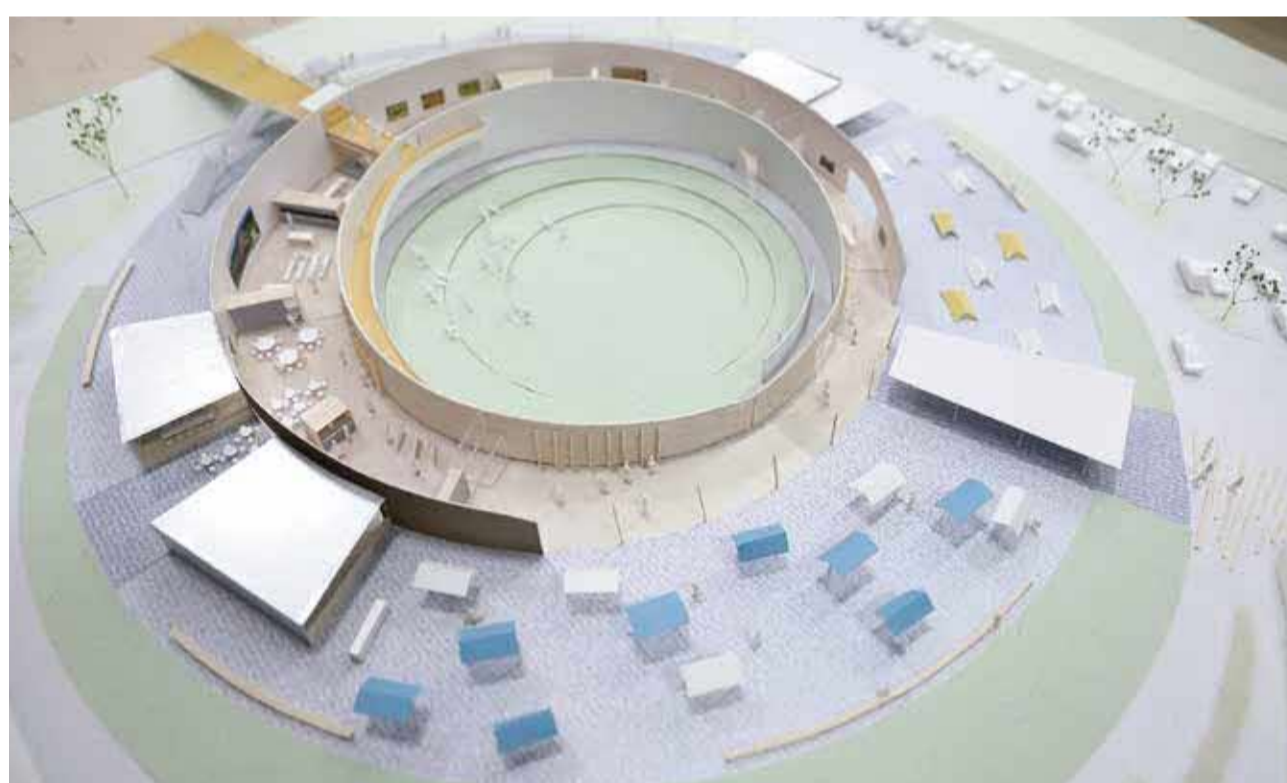


優秀賞 アトリエ・ワン国際開発
コンサルタンツ設計共同体

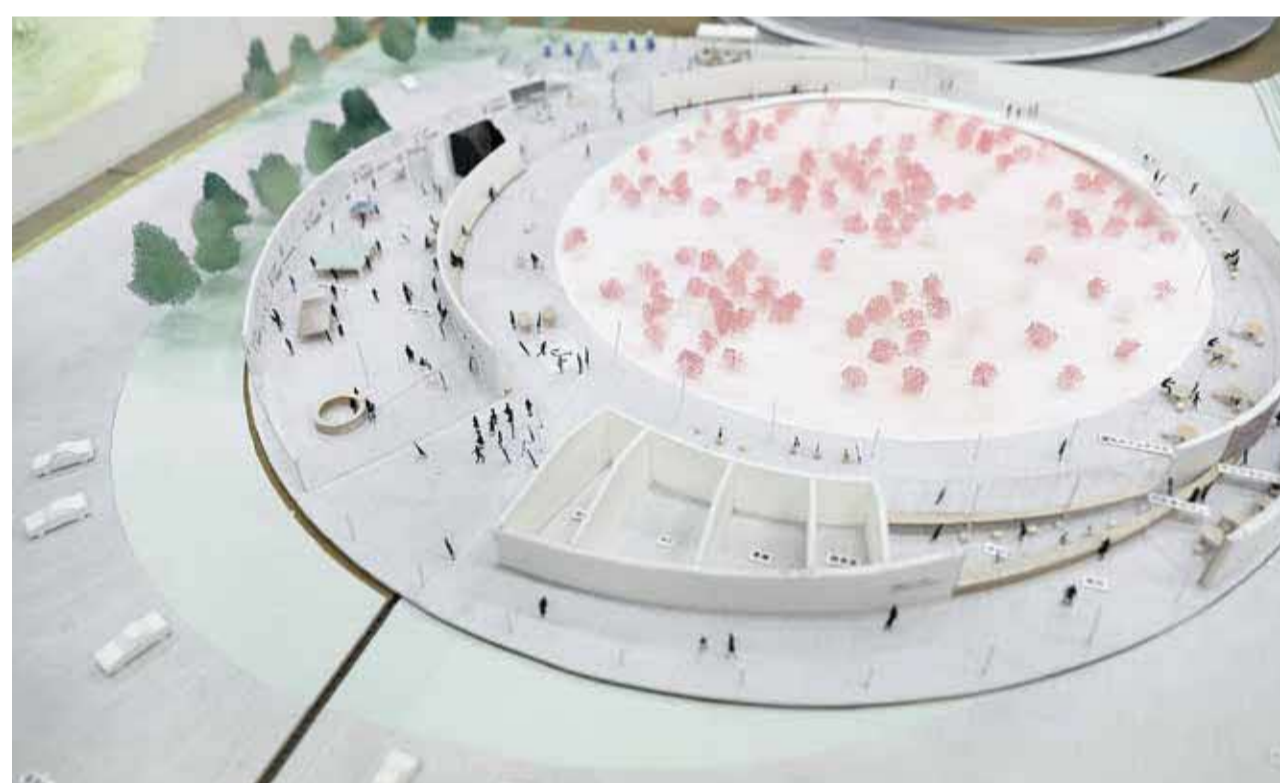


全国から応募のあった41件の中から、一次審査を通過した5者による公開プレゼンテーションにより、阿蘇のダイナミックな風景に呼応するような大らかな屋根を持った建築を提案した「o+h・産紘設計JV」が設計者に選定された。

佳作 株式会社コンテンポラリーーズ



佳作 有限会社乾久美子
建築設計事務所



佳作 アーキスコープ・
Schenk Hattori 設計共同体



自然と人間のつながりを感じ、自然とともに生きることを考える場を目指して

建設地となる阿蘇の雄大な自然に呼応する建築と展示計画とを一体的に検討することで、地震という災害をきっかけに、自然の驚異や恵みを体全体で感じることができる施設を目指して設計が進められている。



株式会社エバーフィールド木材加工場

架構自体が美しい、新しい木造空間

熊本地震の際、木造仮設住宅や「みんなの家」の建設に携わった株式会社エバーフィールドが新たな木材加工場を整備するプロジェクト。災害時に住まい再建の原動力となる木造建築産業のさらなる活性化や職人の技術力向上を進めるため、これまでにない美しい木造架構を目指し、くまもとアートポリス事業に参加した。

美しく新しい木造空間で
木造産業の活性化を目指す

2022年度 竣工予定

公募型プロポーザルにより設計者を選定

最優秀賞 小川次郎 /
アトリエ・シムサ+kaa



優秀賞 倉掛・秋山・井上・川崎
建築設計共同企業体



全国から応募のあった44件の中から、一次審査を通過した5者による2次審査が行われ、圧倒的な独創性を持った提案をした「小川次郎/アトリエ・シムサ+kaa」が設計者に選定された。

2次審査の資料を
公開しています。



佳作 合同会社 白川在建築設計事務所



佳作 水上哲也建築設計事務所
一級建築士事務所



佳作 山下貴成建築設計事務所



モックアップ現場見学会 -意匠、構造、施工の三つ巴で木造レシプロカル構造の可能性を探る-

相互に力がかかることで支え合う木造レシプロカル構造を構造体全体に採用した過去に例を見ない本プロジェクト。施主であり施工者でもある株式会社エバーフィールドからの発案により、実物大のモックアップを製作し、建築設計にフィードバックする取組みがなされた。また、技術者等の育成につなげていくためその過程も公開し、見学会を行った。



現場見学会の様子はアートポリスの
YouTubeチャンネルでも公開しています。

立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ

自然豊かな場所に建つ、公衆トイレの建替え

都市化の進展とともに進む緑地の開発を防ぎ、県民の生活環境を保全するため、自然の森に復元し、健康づくりの場やふれあいの場となっている「立田山憩の森」。この森の中にある公衆トイレの建替えを行う、新たなアートポリスプロジェクト事業。

豊かな自然環境と調和し
森と人が共生できる場所

2021年度 竣工予定

35歳以下を対象とした公募型コンペを実施 史上最多279件の応募

最優秀賞

「森と人の輪」
曾根拓也+坂本達典+内村梓+前原竹二

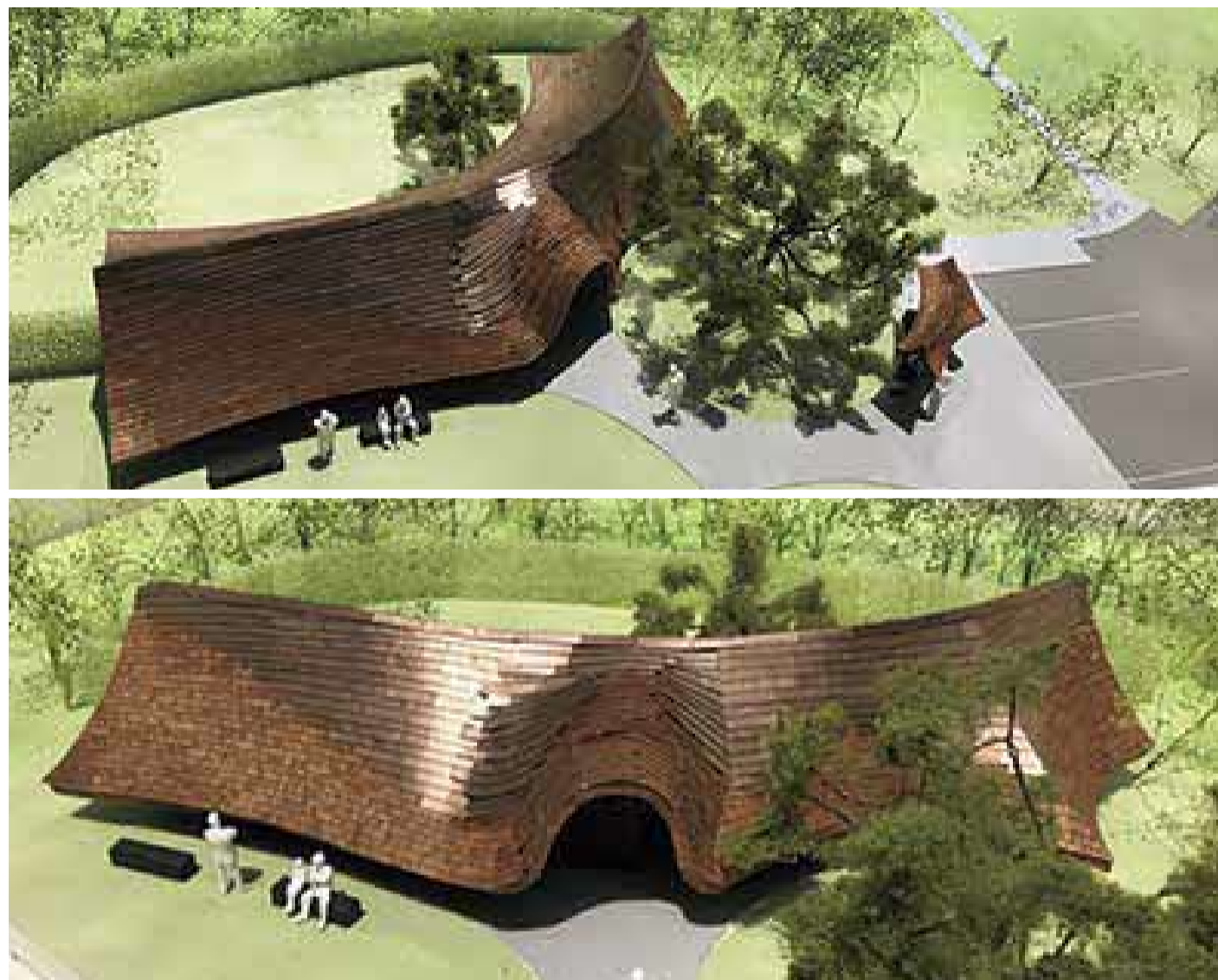
自然(広場・森)と人(散策・車からのルート)之接点となる位置に、小径の丸太材でレシプロカル架構の感情屋根を架け、トイレと共に憩いの場を配置する提案。小径の間伐材を活用することで、間伐材に付加価値を与える。



優秀賞

「立田山と呼応する屋根」
占部将吾+佐藤元樹+西島要

神社の唐破風を想起させる「檜皮葺」と「銅葺き」の大きな曲面屋根が特徴。日本の精神や伝統技術の魅力を伝える建築を目指す。トイレの中から立田山の自然豊かな風景を望むことができる空間構成。



35歳以下の若手御術者を対象に実施した設計競技では、アートポリスプロジェクト事業として史上最多の279件もの応募が全国から寄せられた。

佳作も含めた10作品の提案内容を県ホームページで公開しています。



佳作

「共生の光」
佐河雄介+辻拓也

CLTパネルを持ち送り構造により外側にずらし、カテナリー曲線で描く屋根を持つ自然と共生する建築。



「Birdhouse Toilet」
松田裕介

小さな建築をランドスケープの中に散りばめて配置し、新しい生活様式へ対応した建築のソーシャルディスタンスの提案。



「Leafy Roof Lavatory」
-安らぎの屋根が作るみんなの憩いの場- 幾留温

木の葉のような形状のやわらかな曲線を描く屋根が、訪れた人々に優しい木陰を提供する憩いの場となる計画。



「『森林ミュージアム』のレストルーム」
葛島隆之

機能分散により使う人が選択できる様々なトイレを庭と一体化させて配置させた美術館の展示室のような提案。



「木とコンクリートとガラスの積層フォーリー」
山田健太郎

集塊岩が積層した立田山に、集成材・CLT、コンクリートブロック、ガラスブロックなど異なる素材を積層する建築。



「立田山の訪礼堂」
岩崎裕樹

用を足すこと自体が教会や礼拝堂での祈りのように象徴的な体験となるような訪礼堂(トイレ)の提案。



「PRIMITIVE HUT」憩いの森の憩いの場」
太田裕通+北村拓也

森と広場に抜けるようなヴォイドを穿ち、光・風の通り道としながら、風景との出会いを創出する建築。



「マチ山の教室 マチの中にある山の中の学びの拠点」
菊井悠央+本山真一郎

地域活動の情報と学びの拠点となるトイレの提案。既存トイレを生かし、みんなで考え、みんなで作る計画。



立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ

伐採ワークショップ - 柱として使う丸太材を、立田山の中の広葉樹から選んで伐採する -

立田山のプロジェクトでは、柱に間伐材などの丸太材を使う計画。その柱の一部として使う木材を立田山の広葉樹から選定・伐採するワークショップを開催。丸太材は、その自然の曲線美を建物の意匠として活用することで、近隣の自然と一体感のある施設にする目的がある。



ワークショップの様子はアートポリスのYouTubeチャンネルでも公開しています。



工事の進捗状況

ワークショップで伐採した間伐材を一部構造材に使いながら、建築工事が進められている。



くまもとアートポリスができること



市民に開かれた建築は、自然に開き人と和す。

発足当初からのアートポリスの大きなテーマである木造建築は、地球温暖化ガスの排出抑制の視点から炭素の固定化で注目されています。現在進行中のアートポリスプロジェクトも全て木造であり、地域流通材での一般的構法を採用する数々のプロジェクトは、地域産業の発展を導いています。

そして、「みんなの家」の取組みを中心として自然災害からの創造的復興で目指したのは、多くの人との関わりの中で築く地域コミュニティの再生です。これからも、持続可能な社会の構築に向け、くまもとアートポリスはSDGsを推進します。